

2204 RIA法による血清 pregnancy-associated α_2 -glycoprotein (SP₃) 量の測定

石田正夫、梶田芳弘、塩津徳晃(南丹、内)、
越智幸男(滋医大、二内)、八谷孝、宮崎忠芳、
吉村学、伊地知浜夫(京医大、二内)

近年妊娠関連蛋白が、妊娠のみならず悪性腫瘍患者の血清中に増加する事が報告されている。中でも pregnancy-associated α_2 -glycoprotein (SP₃) に関しては、その血中レベル及び病態生理学的に不明な点が多い。私達は血清 SP₃ のRIA法を開発し、悪性腫瘍患者の血清レベルを検討した。SP₃ は、Dr. Bohnより提供を受け、抗体はダコー社製を用いる第二抗体法で測定した。測定範囲は 1mg/dl~100mg/dl で、正常人血清は 1mg/dl以下であり、妊娠血清は、15mg/dl 以上であった。悪性腫瘍では、肺癌 14 例中 5 例、乳癌 7 例中 2 例が高値を示した。女性ホルモン療法中の前立腺癌 2 例は 87.5、27.5 mg/dl と著増した。一方胃癌、大腸癌では高値を認める例はなかった。今回用いた標識 SP₃ と α_2 -macroglobulin 抗体(ダコー)と交叉反応及び SP₃ 抗体(ダコー)と標識 SP₁ (ヘキスト)が交叉反応を示す事等より、使用した抗原と抗体の特異性に多少の疑問があった。しかし、血中 SP₃ は肺癌及び乳癌等或る種の悪性腫瘍で高率に高値を認める事を確認し癌関連抗原としての意義について検討した。

2205 転移形成とプロスタグランジン E の変動 大塚信昭、伊藤安彦、米田正也、柳元真一 (川崎医大、核医学)

骨転移発生機序におけるプロスタグランジン E (PGE) の役割を明らかにする目的で、家兎 VX-2 癌の骨腫瘍形成過程を骨、骨髄シンチグラフィで follow-up し、PGE の消長との関係を報告してきた。今回は以下の項目について検討した。

- 1) 経皮的に肝内に VX-2 を移植することにより肝転移を作成し、その発育を肝スキャンで follow-up した肝転移群と PGE 値の変動
 - 2) 家兎心室内に VX-2 を注入し、骨転移(-)で広範な転移をきたした群と PGE 値の変動
 - 3) 各種腫瘍細胞における PGE 産生能 (in vitro)
- 骨転移群では骨スキャン陽性時に PGE の上昇を認めたが、肝スキャン上 SOL を認めた肝転移群では骨転移形成群に比し上昇は軽度であった。一方、血行性転移群では骨スキャン陰性(一部骨髄スキャン陽性)であるにもかかわらず高値を示した。この成績は血行性転移の形成法と関係があるように思われ現在検討中である。in vitro では各種腫瘍細胞間に PGE 産生能に変動が認められた。即ち VX-2 ではかなりの PGE 産生能を認めたが HeLaS3 では増加がみられなかった。

2206 担癌体における免疫能の測定。³H-thymidine を用いたリンパ球幼若化率の測定に関する基礎的ならびに臨床的検討

飯尾 篤、萬家千春、和田真理、河村 正、浜本 研
(愛媛大、放)

免疫能の異常が、悪性腫瘍疾患患者に存在することは、従来から考えられていた。今回、我々は、正常人ならびに各種悪性腫瘍疾患患者の末しょうリンパ球を、PHA, Con A を加えて培養することによって幼若化させ、その幼若化率を ³H-thymidine の取り込みによって、測定化すると共に、その基礎的検討を行った。

現時点で健常成人 10 名の PHA および Con A による stimulation index は各々 69.4 ± 40.2, および 25.6 ± 22.7 であった。肺癌、乳癌、食道癌、悪性リンパ腫では、正常値に比べ低い傾向がみられた。またこれら疾患患者の幼若化率の、放射線、化学療法などの治療による変動についても観察した。